研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-190		17-075	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol use and Cardiovascular Disease Risk in Patients With Nonalcoholic Fatty Liver Disease

非アルコール性脂肪性肝疾患患者におけるアルコール摂取と心血管疾患リスク

執筆者

BV Lisa, N Hongyan, BA Norrina, A Veeral, EL Core, JC John, et al.

掲載誌

Gastroenterology. 2017 Nov; 153(5):1260-1272.e3. doi: 10.1053/j.gastro.2017.08.012.

キーワード	PMID
非アルコール性脂肪性肝疾患、心血管疾患、アルコール、CARDIA study	28802566

要　旨

目的：

非アルコール性脂肪性肝疾患患者（NAFLD）においてアルコール摂取と心血管疾患リスクとの関係を検討すること。

方法：

1985 年から 1986 年に米国 4 都市の 18 歳から 30 歳の黒人および白人 5,115 人を対象とした CARDIA study という縦断コホート研究を使用。アルコール摂取は自記式にて研究開始時に評価、その後 15、20、25 年目に評価。25 年目に胸腹部コンピューター断層撮影（CT）など実施。それらを用いて冠動脈石灰化は Agatston スコアが 0 より高い場合、NAFLD は肝臓の CT 画像上の減衰が 51 ハンスフィールド未満の場合と定義。エタノール量を 17.2mL で除した単位（ドリンク）を指標。15、20、25 年目の調査では飲酒者の 1 週間当たりのエタノール値は男性 1-21 ドリンク、女性 1-14 ドリンクであった。

結果：

NAFLD を有する 570 名（年齢 50 歳、黒人 54%、女性 46%）中、飲酒者 58%。非飲酒者と比べて白人、男性、高学歴者の割合が高く、肥満、糖尿病、メタボリック症候群を有した。両者とも肝臓の減衰に差は無かった。多変量調整の結果、アルコール摂取と心血管疾患リスク因子やその他の潜在性心血管疾患予測因子に関係性は認めなかった。

結論：

NAFLD を有する地域住民集団においてはアルコール摂取と心血管危険因子との関連を認めなかった。一般集団では少量飲酒による心血管病予防作用が確認されているが、NAFLD を有する集団では、そのような予防作用は存在しない可能性がある。